

水害時の犠牲者ゼロを目指して

舟渡地区における 水害時の避難ルールブック (改訂版)



このルールブックは・・・

- いつでも見られる場所に置いておきましょう！

令和4年12月 舟渡町会

作成の経緯

近年、全国各地で、これまで予想もしなかった規模の水害が相次いで発生しています。

この避難ルールブックは、平成23年度から平成25年度にかけて開催された「舟渡地区 地域防災力向上会議」での議論をベースに、「荒川下流タイムライン(拡大試行版・平成28年作成)」や「コミュニティ防災ワークショップ(令和元年3月発足)」での議論を踏まえ、万が一の水害時に取るべき行動などを整理したものです。

避難ルールブックの使い方

- 大雨のおそれがある時には、ルールブックを参考に命を守る行動を行ってください。
- 日頃から、ルールブックを読んで、とっさの時にすぐ使えるようにしておくことが大切です。



洪水から命を守るために!!

- 早めの避難
- 積極的な情報の収集
- 地域の助け合い

水害のおそれがある場合

- 避難情報と川の水位..... 1
- 水害時の避難ルール..... 2
- バスでの避難（要配慮者）..... 3
- 舟渡町会コミュニティタイムライン..... 5
- 防災情報の入手..... 6
- 堤防決壊危険箇所と想定浸水深..... 7

より適切な避難に向けて

- 命を守るには..... 8
- 被害を減らすには..... 12
- 避難所での生活..... 13

水害に備えて

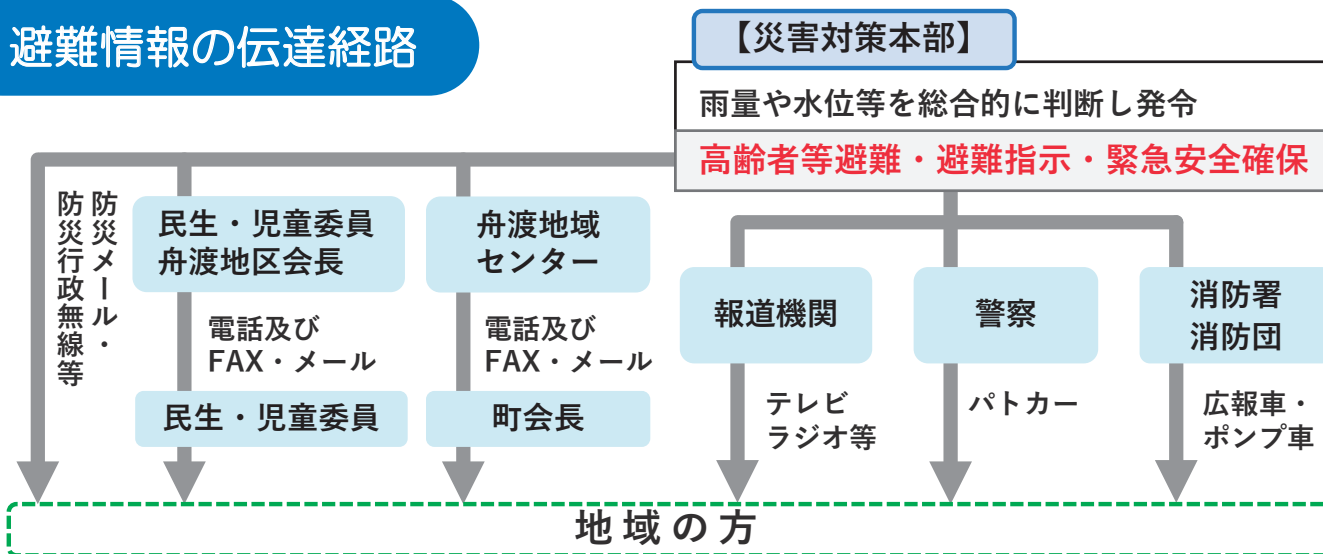
- 舟渡地区の水害リスク..... 17
- 舟渡地区で注意すべき降雨..... 19
- 降雨と水位の関係..... 20
- 避難情報と川の水位..... 22
- 浸水深と被害..... 23
- 情報の入手方法
 - 1 テレビのデータ放送..... 24
 - 2 パソコン..... 25
 - 3 携帯電話..... 26
- 雨や風の強さの目安..... 27
- 被害を減らすポイント..... 28
- 自宅への浸水被害の軽減策..... 29
- 避難所の部屋割..... 30

水害のおそれがある場合 避難情報と川の水位

☞ 板橋区では、水害のおそれがある場合に**避難情報**を発表します。

レベル	行動を促す情報	住民が取るべき行動	状況
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！	災害発生または切迫
← 警戒レベル4までに必ず避難 →			
4	避難指示	危険な場所から全員避難	災害のおそれ高い
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難	災害のおそれあり

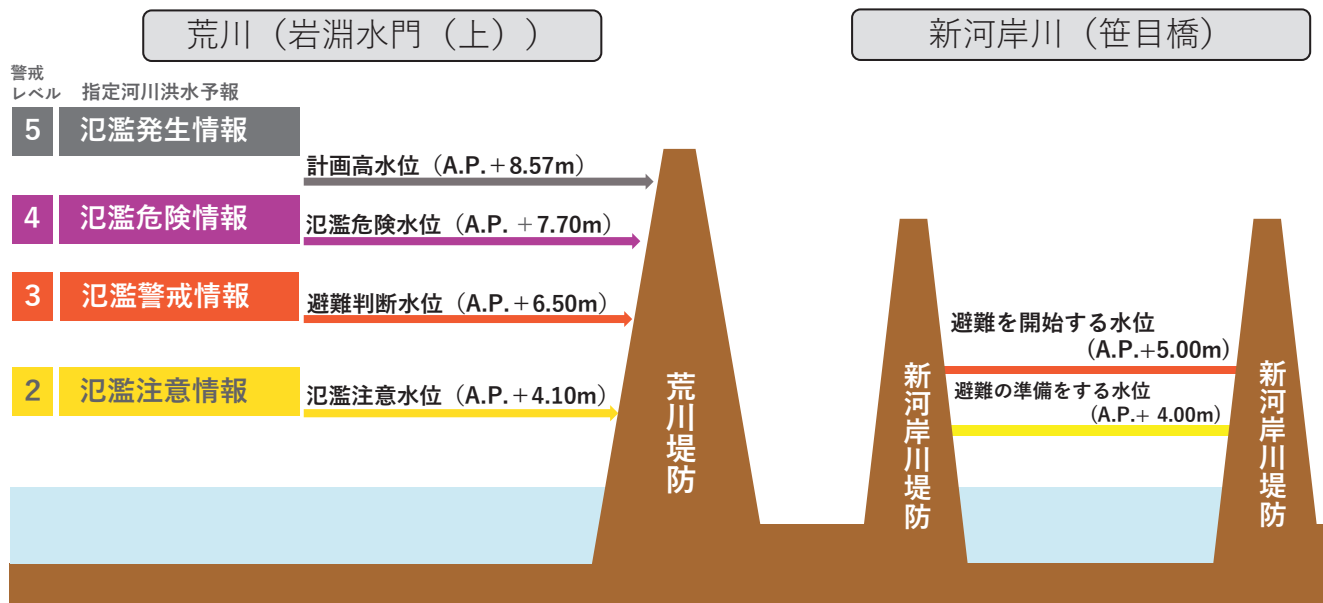
避難情報の伝達経路



洪水予報

荒川・新河岸川

※ 洪水予報には「氾濫注意情報」から「氾濫発生情報」まで4段階の情報があります。避難判断水位(A.P.6.50m)は避難を行うための猶予時間を考慮した水位です。雨の降り方によっては、水位が急激に上昇することもありますので、余裕をもった行動を心がけましょう。(A.P.: 荒川工事基準面)



水害のおそれがある場合 水害時の避難ルール

! 自宅の想定浸水深 m

ハザードマップで確認しましょう。

平常時・事前

☞ 板橋区防災メール配信サービスに登録

登録方法

itabashi@cousmail-entry.cous.jp

上記アドレスに空メールを送ると自動的に返信がきますので、登録が完了となります。



注意時期

☞ 板橋区防災メールから **気象警報** を受け取る。

※ 荒川では上流の埼玉県の警報も注意しましょう。

☞ **荒川、新河岸川の水位情報に注意**

※ 荒川「岩淵水門（上）」
新河岸川「笹目橋」の水位を確認しましょう。



状況に応じた避難

（避難方法は P.5 を参照）

避難の準備を開始

☞ 「**避難の支援が必要な方（要配慮者）等**」は **避難を開始**

荒川【岩淵水門（上）】	新河岸川【笹目橋】
水位が 約 4 m を超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時	水位が 約 4 m を超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時

※ 板橋区防災メールに登録すると、国土交通省と気象庁が共同で発表する洪水予報が配信されます。
→ 洪水情報の確認は P.6

避難を開始

荒川【岩淵水門（上）】	新河岸川【笹目橋】
水位が 約 6 m を超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時	水位が 約 5 m を超過し、さらに水位が上昇すると見込まれる時

町会では、

「**避難の準備を開始**」を **約 4 m**(岩淵水門(上))と **約 4 m**(笹目橋)、
「**避難を開始**」を **約 6 m**(岩淵水門(上))と **約 5 m**(笹目橋)に決めています。

※ 「避難の準備を開始」や「避難を開始」の水位は早めの避難を促す目安であり、洪水予報に基づく「避難判断水位」や「氾濫注意水位」は、P.1に示した水位です。

板橋区からの避難情報も発表されますので、情報に従って行動してください。

舟渡町会では、**要配慮者**が避難所に移動する際、**日本中央バスの援助協力**をお願いしています。

①避難対象者

- **要配慮者** および **補助支援者** です。
※提供されるバスの台数により乗車可能人数が変わりますので、避難対象者は町会が作成する要配慮者リストにより決定します。

②集まる時期

- **高齢者等避難**が発令されたときです。
※町会は、日本中央バスにバス配車時刻、バス台数、乗車人数を確認する。
- **高齢者等避難発令から3時間以内**に集まってください。
- バスが出る場合は、対象者に**町会から連絡**が入ります。

③集合場所と避難先（次のページに地図があります）

【集合場所】 **舟渡小学校 西門**

【避難先】 **区の指定避難場所**

④避難手段と事業所の協力範囲

【避難手段】 大型バス

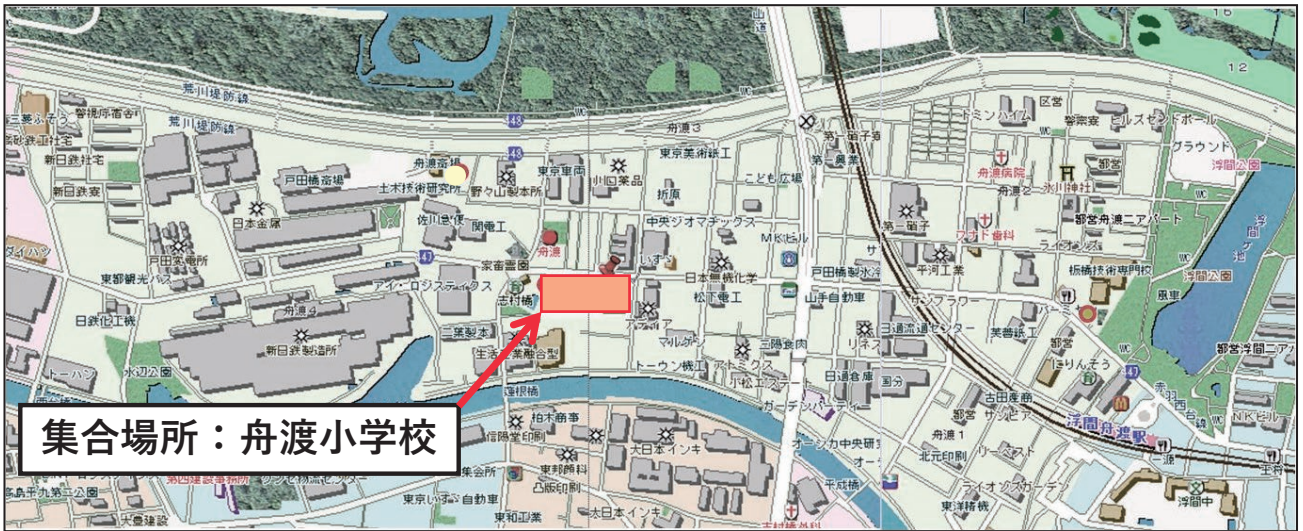
【協力範囲】 **大型バス1台以上**
365日24時間対応

短期的な避難所としての利用もOK

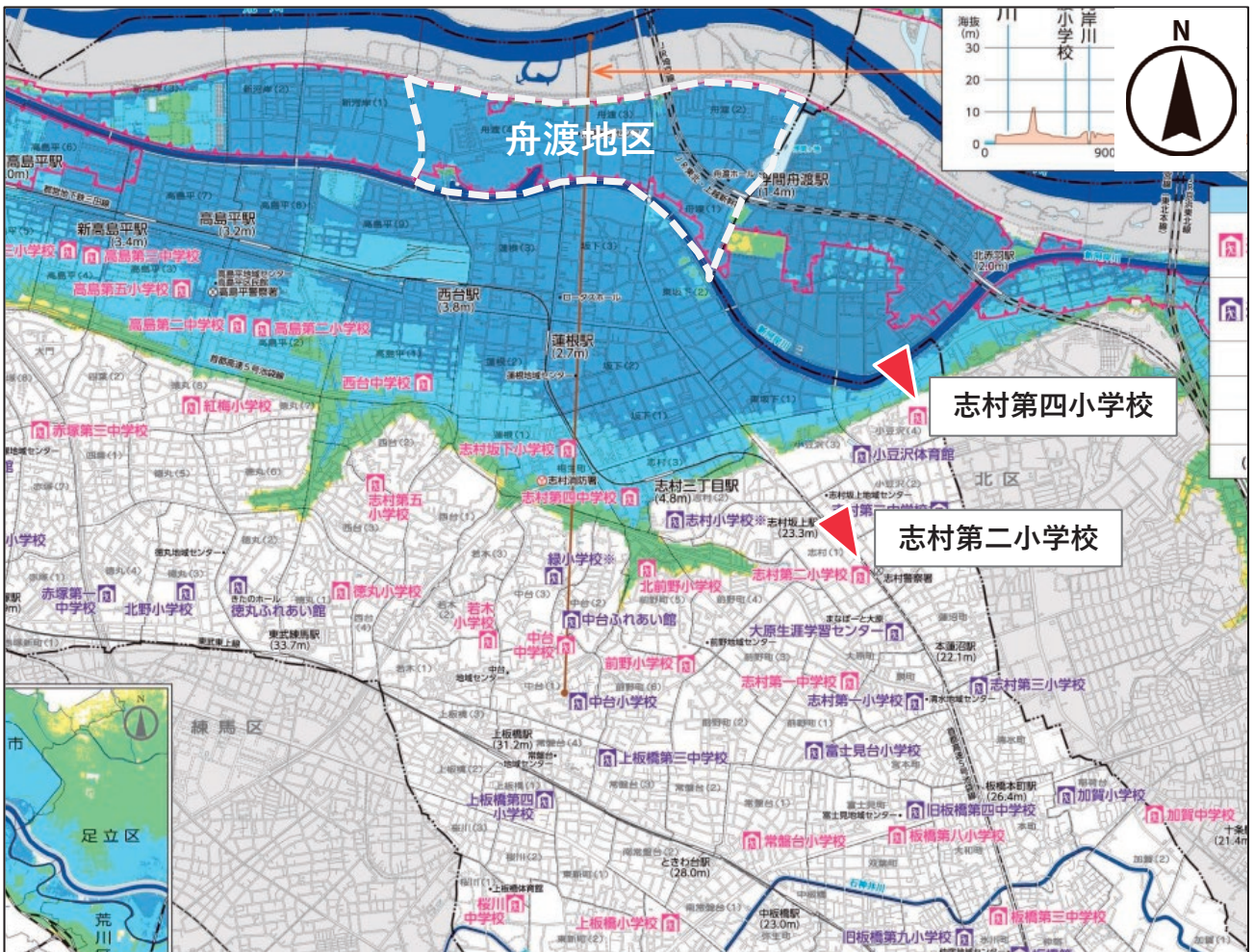
⑤避難時のルール

- 避難用バスが、**集合場所を離れるときは、学校の門に看板**を取付けます。
- **看板がある場合は、今後バスはもう来ません。**
- **集合場所には車で来ないでください。**

【集合場所位置図】



【バスの乗り入れが可能な避難所】



…避難先の例です。状況に応じて別の避難所に避難することもあります。

舟渡町会コミュニティタイムライン

■町会の方針

基本的な考え方

●

普段からやっておくこと

●

■洪水時の行動

ステージの設定

荒川下流 タイムライン

舟渡地区における きっかけ情報

町会がすること

個人ですること

ステージ1 2日前 避難の準備

- 縁故避難呼びかけ開始
- 住民防災組織等へ情報提供
- 福祉施設等の避難支援準備
- 笹目橋水位観測所(新河岸川)の水位

縁故等避難の準備を開始する

- 防災情報等の収集
- 情報が伝わりにくい人への情報伝達
- 要支援者の所在確認
- 町会の各班での情報共有と役割の確認
- 他町会との連携事項の確認

- 縁故避難の準備開始(分散避難)
- 避難グッズの確認
- ハザードマップの確認

ステージ2 11時間前 避難の開始

- 氾濫注意情報(岩淵)
- 舟渡、新河岸地区に【高齢者等避難】を発令
- 笹目橋水位観測所(新河岸川)の水位
- 一時集合場所、避難所の開設

縁故等避難の開始 要支援者は避難開始

- 防災情報等の収集
- 要支援者に対する避難支援
- 要支援者の避難状況の確認
- 地区住民への早めの避難の呼びかけ

- 縁故避難の開始(分散避難)
- 要支援者の避難開始
- 地区住民の避難準備

ステージ3 4時間前 地区から 脱出

- 氾濫警戒情報(治水橋)
- 高台の避難所を開設
- 【避難指示】を発令
- 区外への避難を伝達

住民は地区から離れ、避難する 風雨が強くなる前に避難する

- 避難誘導
- 地区住民への避難支援
- 町会員の避難状況の確認
- 避難支援者は支援を終えて避難

- 速やかに避難

ステージ4 0時間 避難の徹底・ 継続

- 氾濫危険情報(岩淵)の発表
- 【緊急安全確保】の発令

確実に安全な状況になるまで避難場所から離れない・戻らないを徹底する

- 避難者の状況確認
- 町会員・地区住民の避難状況の共有
- 避難者への被害状況の提供

- 避難完了
- 安全確保

水害のおそれがある場合 防災情報の入手

確認すべき情報

板橋区からの避難情報を待つだけでなく、**自ら情報を入手しましょう。** 洪水の状況を把握するために、以下の情報に注意しましょう。

- 雨や風などの**気象情報**
- 荒川下流域の**ライブ映像**
- 荒川の**水位情報**
- **避難情報**(高齢者等避難・避難指示・緊急安全確保)

防災情報の入手先

	情報入手先	入手方法	情報
携帯電話	板橋区防災メール 	メール配信サービスメールアドレス itabashi@cousmail-entry.cous.jp 上記アドレスに空メールを送ると自動的に返信がきますので、登録が完了となります。 	水位 雨量 気象 避難
	国土交通省 「防災情報提供センター」 	www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/ 川の水位や気象警報注意報等が確認できます。 	水位 雨量 気象
電話	荒川下流河川事務所 「水位・雨量自動応答装置」	03-3902-2393 上記番号に電話を掛けると自動音声によって岩淵水門付近の観測水位と雨量が確認できます。	水位 雨量
テレビ	データ放送 	ご家庭のテレビのリモコンの「dボタン」を押して、TOPメニューの「河川水位雨量情報」および「防災・災害情報」(NHKの場合)を選択します。	水位 雨量 気象
パソコン	国土交通省 「防災情報提供センター」 	www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/ 川の水位や気象警報・注意報等が確認できます。 	水位 雨量 気象
	荒川下流河川事務所 	www.ktr.mlit.go.jp/arage/ 	水位 雨量 ライブ映像
	板橋区 気象情報 	http://www.micosfit.jp/itabashi/ 荒川・新河岸川の水位が確認できます。 	水位 雨量 気象 ライブ映像

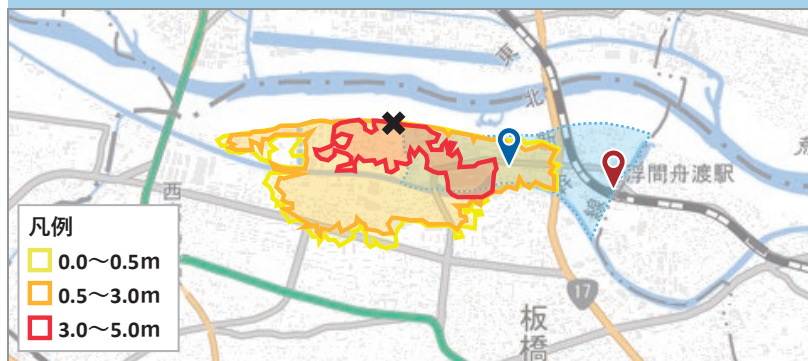
水害のおそれがある場合

堤防決壊危険箇所と想定浸水深

堤防決壊危険箇所

堤防が決壊すると、地区はあっという間に浸水しますので、事前の避難が大切です。

【決壊30分後の様子】舟渡地区周辺



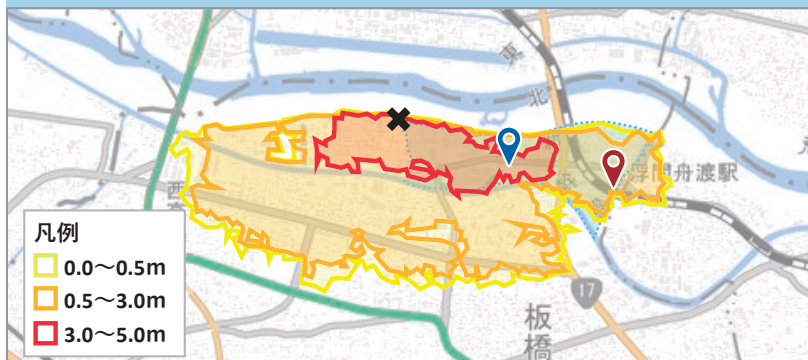
✕ 堤防決壊場所

決壊30分後の浸水深

- 📍 浮間舟渡駅 0.00m
- 📍 舟渡小学校 1.70m

✕印の箇所で堤防が決壊した場合は、30分後に舟渡地区の約3分の1が浸水すると予想されています。

【決壊1時間後の様子】舟渡地区周辺



✕ 堤防決壊場所

決壊1時間後の浸水深

- 📍 浮間舟渡駅 1.45m
- 📍 舟渡小学校 3.39m

1時間後には、舟渡地区のほぼ全域が水深3～5mに達すると予想されています。

想定される浸水の深さ

浸水深は場所により7mを超えるおそれがあります。



※荒川水系荒川浸水想定区域図より推定

より適切な避難に向けて

命を守るには ～その1～

避難行動について

安全に避難をするために、台風の接近前やバスや電車が動いている時間に余裕をもって「事前避難」を行ってください。万が一、逃げ遅れた場合には、高い建物の上層階へ避難してください。

なお、台風が過ぎ去った後に、河川水位が最も高くなる可能性があるので、気を緩めないでください。

事前の避難

↓↓こんな時に行う避難↓↓

- ・ 台風の接近前
- ・ 傘をさしても歩ける雨風
- ・ バスや電車が動いている
- ・ 高齢者等避難の発令等

縁故避難
(分散避難)

浸水のおそれがない所に居住する家族、親戚、知人の家やホテルなどへ早めに避難する。

高台避難
(避難所避難)

- ・ 可能な限り区内の浸水が及ばない地域に避難する。
- ・ 区が指定する避難所が開設していることを確認し、できるだけ早く避難をする。

緊急時の避難

↓↓こんな時に行う避難↓↓

- ・ 緊急安全確保の発令
- ・ 堤防の決壊
- ・ 浸水まで時間の余裕が無い

緊急垂直避難

高台へ避難する時間的猶予がない場合、近くの丈夫な建物の上層階(4階以上)に移動し避難する。

自宅での避難

↓↓こんな方が行う避難↓↓

- ・ 浸水被害が想定されていない地域の方
- ・ 避難指示等が発令されていない地域に居住の方

在宅避難

お住まいが浸水区域外や家屋倒壊の恐れがない丈夫な建物の上層階の場合、食料などを確保したうえで自宅にとどまって避難をする。

避難は浸水が始まる前に行いましょう！

より適切な避難に向けて 命を守るには ～その2～

避難の開始

余裕を持った避難を行うためには、**水位等の情報に注意**し、適切なタイミングで避難を開始することが重要です。

避難所へ行くには、自力で避難が可能な方でも**1時間程度**必要となります。以下の情報を目安に、早めに避難を始めましょう。

避難の方法

徒歩での避難が基本です。

車での避難は渋滞に巻き込まれたり、水に浸かってしまうと動けなくなったりすることもあるため、たいへん危険です。



万が一逃げ遅れた場合の避難

浸水が始まり、逃げ遅れた場合には無理に避難所に行かず、現在の場所にとどまることや、近くの高い建物（4階以上）に避難します。

その際には、**約2週間程度の孤立のおそれ**があります。

孤立した時の留意事項 → 水や食料を備蓄しているか

簡易トイレの準備をしているか

病人が出た場合に対応が難しい

定期的な診療を受けている人が診療をうけられない

浸水した状態では、道路と側溝、用水路の境が見分けられずに水流に流される事故や、マンホールの蓋が開いて下水に落ちる事故が発生しているため危険です！

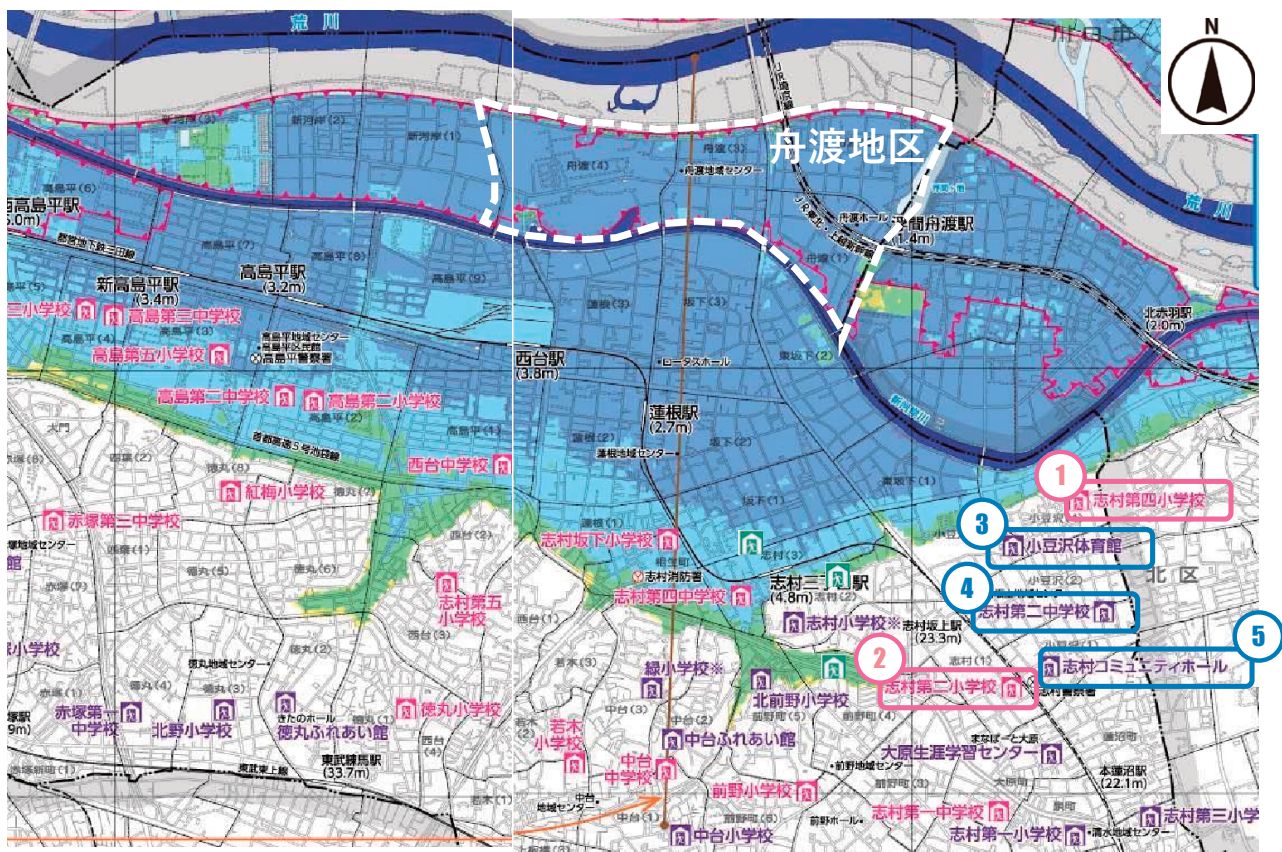
より適切な避難に向けて 命を守るには ～その3～

舟渡地区から近い避難所

水害時における避難所の開設は、区の災害対策本部が決定します。

舟渡地区から近い避難所は5校ありますが、荒川や新河岸川氾濫の危険性の度合いによって開設される避難所は変わります。**どの避難所が開設されているかは、区から発表される避難情報等で確認してください。**

避難情報は、防災行政無線、広報車、防災メールなどから取得することができます。



【最寄りの避難所】

(1) 荒川氾濫警戒・新河岸川氾濫危険時

- ① 志村第四小学校
- ② 志村第二小学校

(2) 荒川氾濫危険時（氾濫が現実的）

- ③ 小豆沢体育館
- ④ 志村第二中学校
- ⑤ 志村コミュニティホール

凡例 Legend

	避難所 第1段階（氾濫警戒） Evacuation Shelter Level 1 (warning on flood)
	避難所 第2段階（氾濫危険） Evacuation Shelter Level 2 (flood hazard)
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
	海抜（標高） Height above Mean Sea Level (27.5m)

※下記の区域は早期立ち退き避難が必要です。

家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
氾濫流の直撃により、標準的な木造家屋の倒壊等をもたらすような氾濫が想定される区域

想定される浸水深

▼水深の目安 **（浸水深）**

2階の軒下までつかる程度 **（5.0m以上）**

2階の床下までつかる程度 **（3.0m）**

1階の床下までつかる程度 **（0.5m）**



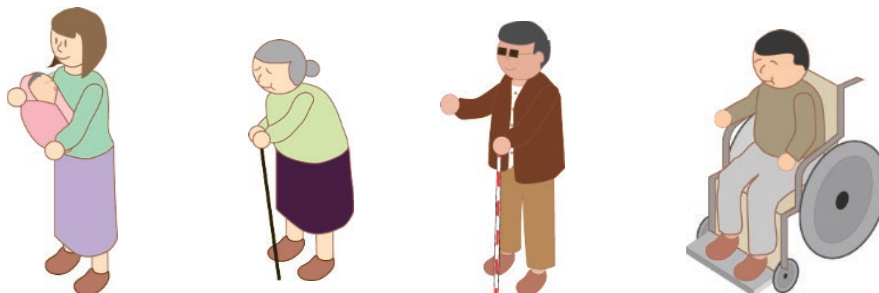
より適切な避難に向けて

命を守るには ～その4～

地域内の助け合いの考え方

地域内には避難の支援が必要な「**要配慮者**」がいます。水害時には、地域内で助け合って全員が安全に避難することが大切です。

- 高齢者
- 障がい者
- 難病患者
- 乳幼児
- 妊産婦
- 外国人の方 など



避難支援をする時の注意点

避難支援の方法は以下の点に注意して行いましょう。

- 避難支援者は、支援が必要な方と一緒に避難を完了しましょう。どうしても自宅に戻るなど避難先を出なければならない場合は、ひとりでは行動しないようにしてください。
- 避難場所への移動が困難な場合、**支援が必要な方を建物の上階（4階以上）へ避難させるようにしてください。**

支援者が人を上階に避難させる時の目安

【布担架を使用】

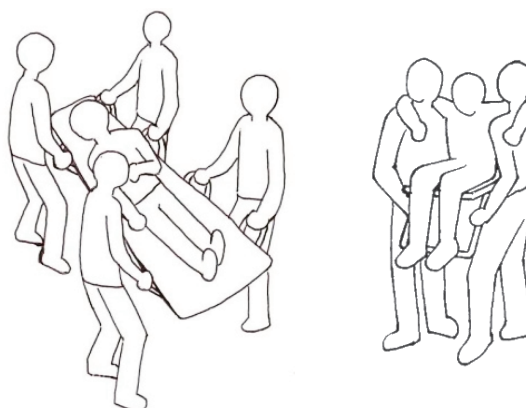
一般成人男性 4人

【椅子を使用】

一般成人男性 2人

布担架に代用できる資材

- ・ 毛布
- ・ シーツ
- ・ カーテン



より適切な避難に向けて 被害を減らすには

財産の保護

危険な水位に達する前に財産の保護を終え、ご自身や地域の方の身を守ることを優先しましょう。日頃からの準備が重要です。

財産の例

守る必要のある財産として以下の物が考えられます。

1. 重要書類（通帳等） 	2. 家具・寝具 	3. 電化製品（テレビ等） 
4. パソコン（データ） 	5. 衣類 	6. 仏壇・位牌 
7. 書籍（アルバム等） 	8. 自動車 	

守る財産のリスト

守る必要のある財産とその優先順位を確認して、その方法を書き込みましょう。守る方法は自宅の浸水深を踏まえて決めましょう。

優先順位	守る財産	守る方法
1		
2		
3		
4		
5		

より適切な避難に向けて

避難所での生活 ～その1～

非常持ち出し品の用意

避難場所での生活に **最低限必要なもの（3日分程度）** を用意します。
すぐに避難できるように普段から必需品はリュックなどに準備しておきましょう。**用意には30分程度掛かる**と考えて下さい。

非常持ち出し品リスト

●非常持ち出し袋に入れておくもの

- 非常食・飲料水(多めに)
- 携帯ラジオ（予備電池）
- 衣類（下着、上着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなど）
- 救急医療薬（ばんそうこう、ガーゼ、包帯、かぜ薬、マスクなど）
- 使い捨てビニール手袋・使い捨てビニールエプロン・ゴミ袋
- ウエットティッシュ・ペーパータオル
- ろうそく
- 懐中電灯（予備電池）
- 生活用品（ライター、ナイフ、缶切り、ティッシュ、ビニール袋、歯ブラシ）
- 消毒用品(アルコール消毒・ハンドソープ・固形石けん)
- 体温計
- スリッパ
- 携帯トイレ

●避難する時に必ず持ち出すもの

- 健康保険証（身分証明書）
- 現金などの貴重品（紙幣の他に公衆電話用の小銭）
- 携帯電話（充電器）

●家族構成によって必要なもの

- 常備薬（持病のある方）
- 粉ミルク・紙おむつ
- 生理用品
- おくすり手帳
- 介護用品

●あると便利なもの

- 毛布、寝袋
- カセットコンロ
- 床に敷くシート
- 使い捨てカイロ
- 割りばし

※ほかに必要だと思うものがあれば、書き加えましょう。

より適切な避難に向けて

避難所での生活 ～その2～

避難所生活のルール

避難所では、学校等の施設に多くの住民が集団生活をするようになります。また、施設内で使える部分が限られています。

避難所の各世帯の居住部分は、感染症を考慮し 1人あたりの占有スペース 2 m × 2 m（最低 2 m × 1 m）を確保しましょう。

※避難所運営方法は、板橋区「避難所運営マニュアル（令和2年9月）」及び東京都「避難所におけるコロナウィルス感染症対策ガイドライン（令和2年6月）」を参照

避難所における感染症防止対策

新型コロナウイルスなどの感染症防止対策として、下記の①～④に注意しましょう。

①避難者の健康状態を確認

避難所での受付の際には、避難者に対し発熱や咳などの症状の有無を聞き取りましょう。（非接触体温計による検温の実施）

避難所運営本部は、避難者が避難所内で具合が悪くなった場合にその旨を申し出るよう掲示板やアナウンスで呼びかけましょう。

②発熱、咳等の症状が出た避難者、濃厚接触者のための専用スペースを確保

症状がある避難者用の避難スペースは、症状のない避難者と分けた別の専用スペースを確保し、専用のトイレも確保しましょう。また症状の無い避難者と体調の悪い避難者が極力交わらないような通路等を工夫しましょう。

③十分な換気の実施と、スペースの確保

避難所では、三密の状態を回避するため、扉を開放したり、定期的に窓を開けるなど十分な換気を行うとともに、避難者同士の距離も確保しましょう。

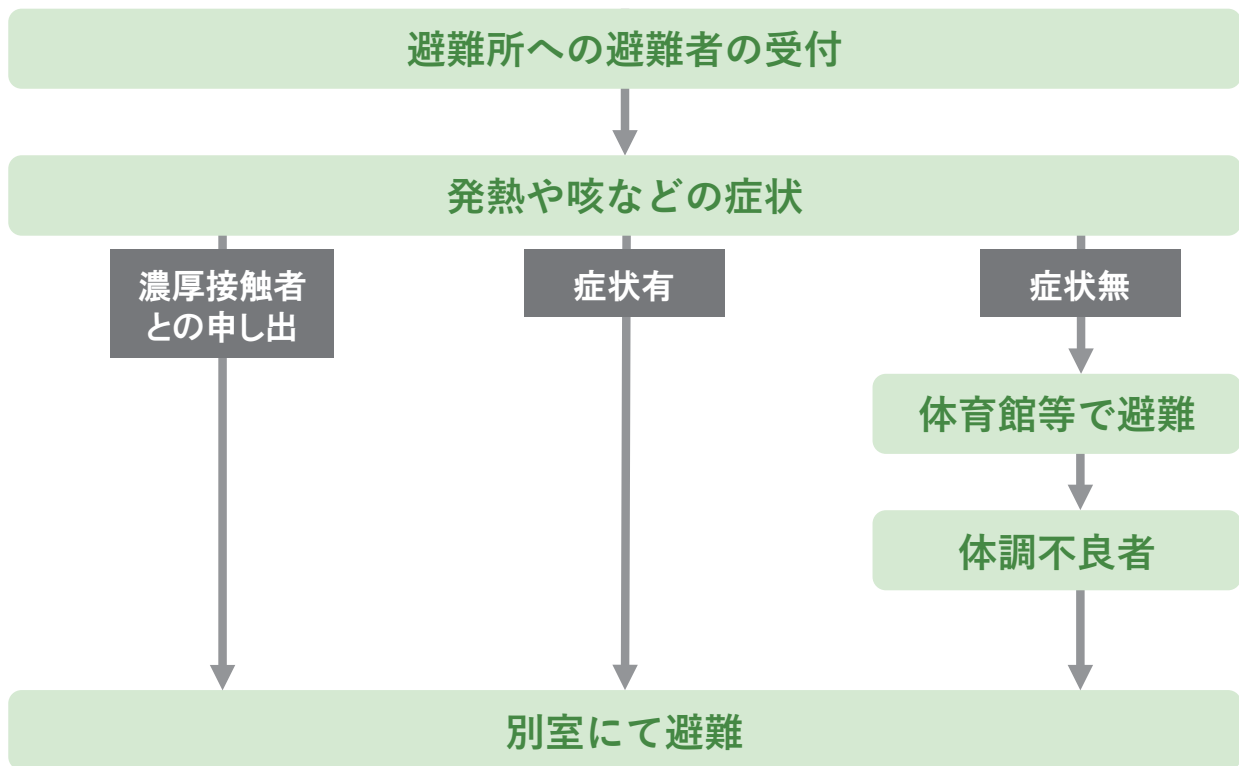
④手洗い・咳エチケット等の基本的な対策の徹底

掲示板等を使い、手指消毒や、手洗い、咳エチケットなどの基本的感染症対策を行うように呼びかけをしましょう。特に、人の往来が頻繁となる避難所の入口等には、手指消毒剤を設置しましょう。

新型コロナウイルス感染症が流行している間は、発熱・咳等の症状が無くても、避難所内ではマスクを着用しましょう。マスクを持参しなかった避難者に、備蓄マスクを配布したり、症状のある避難者用避難スペースに携わる職員は、配備されたマスク・ゴーグル・手袋を使い対応しましょう。

より適切な避難に向けて 避難所での生活 ～その3～

受付から部屋割りまでの流れ



みんなの感染対策

新型コロナウイルスなどの感染症が流行している場合は、人が多く集まる指定避難所での避難に限らず、家族・友人宅への縁故避難や在宅避難を検討します。

避難所での避難を行う場合は下記に示す①～③を守り、みなさんと、感染症の拡大を防止しましょう。

- ①避難所では、マスク着用は必須です！持参しましょう
- ②手指消毒・手洗いをしましょう！
- ③体調が悪い場合は、すみやかに避難所運営本部に伝えましょう！

より適切な避難に向けて 避難所での生活 ～その4～

ペットの避難

避難所に飼っているペットを連れて避難する場合には、以下のことに注意が必要です。

ペット避難の準備

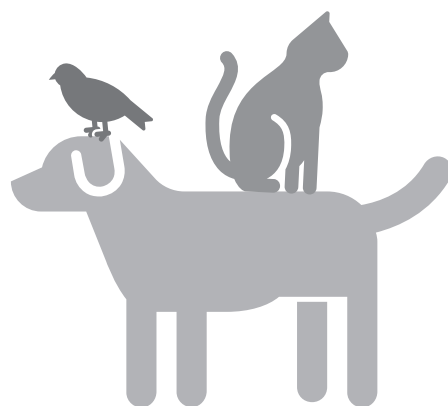
- 飼い主がケージ等を用意してください。
餌や水などの用意、餌やりや糞尿の始末は飼い主自身が行えるようにしてください。
- 基本的なしつけ（無駄吠えしない、飼い主の指示に従うなど）ができていく必要があります。
- 犬については、狂犬病注射済票を持参してください。
（予防接種を受けていない場合、伝染病が蔓延する可能性があるため、避難所では受入れできません。）

ペット受入れスペース

避難所には、動物が苦手な人やペットのアレルギーを持った人もいるため、人とペットの居住区は分けることが原則です。

預け先の確保

親戚や友人等、いざというときにペットの預かり先を探しておきましょう。



水害に備えて

舟渡地区で過去に起きた水害

昭和33年の台風22号（狩野川台風）では、荒川が大増水し、戸田側の堤防が決壊しました。舟渡地区にも避難命令が出され坂上方面に避難しました。

降雨の排水がはかどらず、1丁目、2丁目、4丁目の低地は、床上1m以上も浸水した家がありました。



昭和41年6月の台風4号では、新河岸川の大増水により舟渡地区が浸水し、かなりの被害がありました。



水害の種類

河川からの水による被害



河川の堤防から水があふれたり、堤防が決壊して家屋や田畑が浸水する現象です。

流れが強く、大量の土砂や流木を含むため、人や家屋に対して強い衝撃を与え、大きな被害を発生させる可能性があります。

※本ルールブックは、荒川・新河岸川からの水害を対象としています。

雨水が排水できないことによる被害




降った雨を排水処理できず引き起こされ、至る所で発生しやすい現象です。

荒川の氾濫に比べ、家屋等に対する衝撃力は小さいものの、浸水深が深くなった場合には移動が制限され、家屋内外の財産は浸水による被害を受けます。

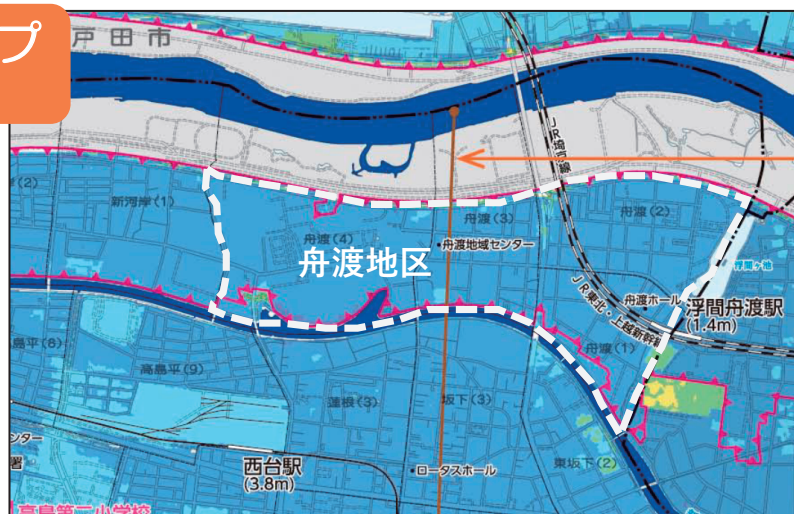
想定される水害

荒川	板橋区洪水 ハザードマップ (荒川版)	平成28年5月30日に国土交通省が公表した「洪水浸水想定区域図」(水防法の規定による想定最大規模降雨、荒川が流れる地域で3日間での総雨量632mmの降雨があった場合)に基づき作成。(令和3年7月作成)
集中豪雨	板橋区洪水 ハザードマップ (集中豪雨版)	東京都が作成した浸水予想区域図を基に、想定最大規模の降雨(総雨量690mm, 1時間雨量153mm)があった場合に想定される浸水状況。(令和3年7月作成)

板橋区洪水ハザードマップ (荒川版)

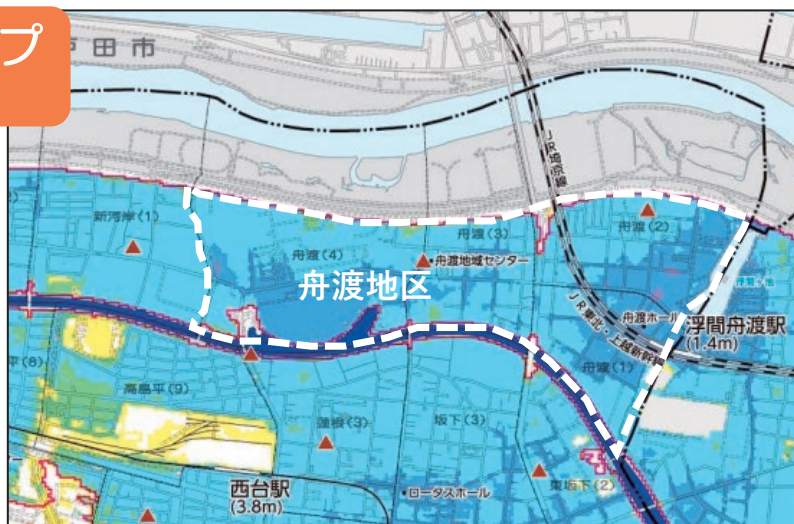
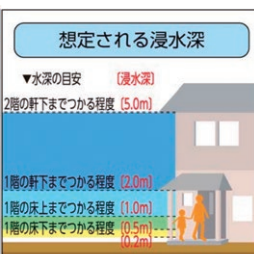
※下記の区域は早期立ち退き避難が必要です。
 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流) 氾濫流の直撃により、標準的な木造家屋の倒壊等をもたらすような氾濫が想定される区域

凡例 Legend	
	避難所 Evacuation Shelter
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
	土のうステーション Sandbag Base
(27.5m)	標高 Height above Mean Sea Level



板橋区洪水ハザードマップ (集中豪雨版)

凡例 Legend	
	避難所 Evacuation Shelter
	区役所 City Office
	警察署 Police Station
	消防署 Fire Station
	土のうステーション Sandbag Base
(27.5m)	標高 Height above Mean Sea Level



舟渡地区で注意すべき降雨

荒川

- 源流は日本百名山のひとつ甲武信ヶ岳
- 舟渡地区で雨が降っていなくても、川の水かさが増える恐れがあります。
- 流域面積：2940 km²（新河岸川の約7倍）
- 延長(全長)：約173km（新河岸川の約5倍）



新河岸川



- 源流は川越市の狭山丘陵
- 板橋区やその近隣（狭山市・川越市・和光市）で、激しい雨が降った場合に注意が必要です。
- 流域面積：411 km²
- 延長(全長)：約35 km



荒川と新河岸川では流域の広さが違う！

第1回住民ワークショップ資料より
(東京管区気象台)



- 荒川の洪水は、埼玉県中心に**広範囲**（上図 ）で数日間大雨が続いた時に発生しやすい
- 新河岸川の洪水は、流域内（上図 ）で短時間に大量の雨が降った場合に発生しやすい

過去の事例

令和元年10月 台風19号

【概要】

10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を発達しながら西へ進み、7日には大型で猛烈な台風となりました。

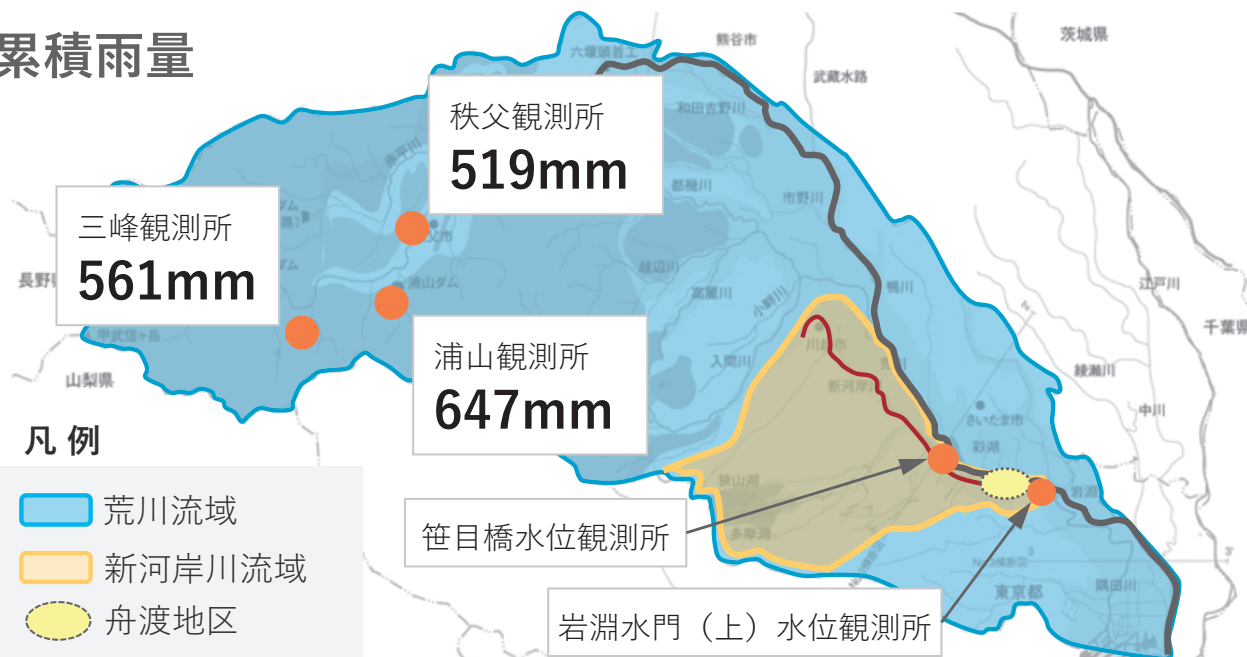
主な雨量観測所の雨量は、三峰561mm、秩父519mm、浦山647mmでした。



【河川水位】

荒川の岩淵水門（上）観測所では、カスリーン台風（昭和22年9月）、狩野川台風（昭和33年9月）に継ぐ、過去3番目の最高水位を観測した。

累積雨量



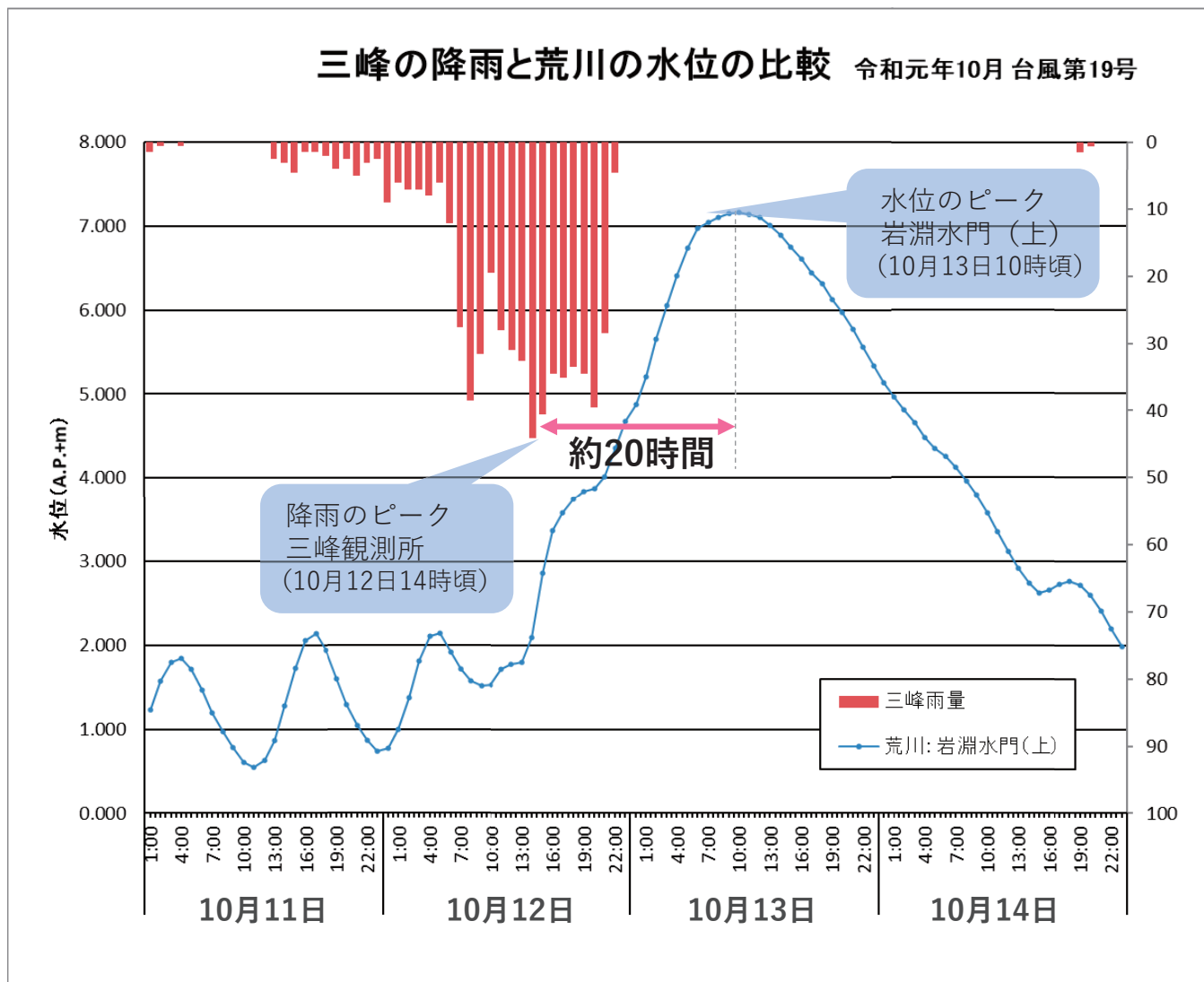
※ 荒川の増水が心配されるときに注意する気象予報の発表区分（注意報・警報）

● 埼玉県秩父地方（秩父市、小鹿野町、横瀬町、皆野町、長瀬町）

過去の事例

令和元年10月 台風19号

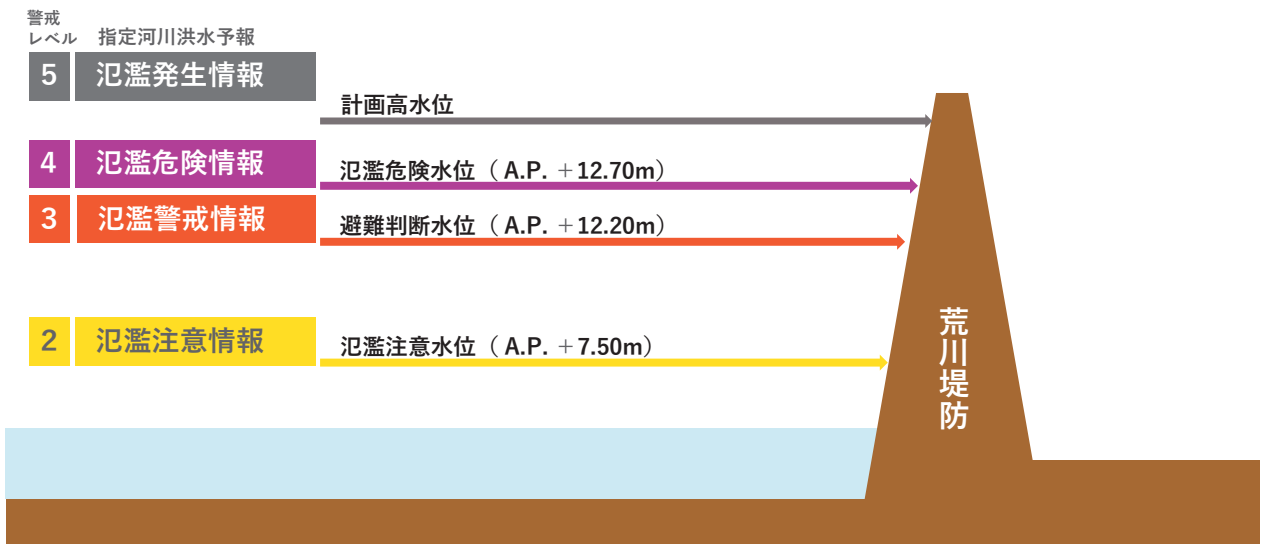
埼玉県を中心に広範囲で降った雨が舟渡地区付近に到達するまでの時間は、**約20時間**の差がありました。



洪水予報

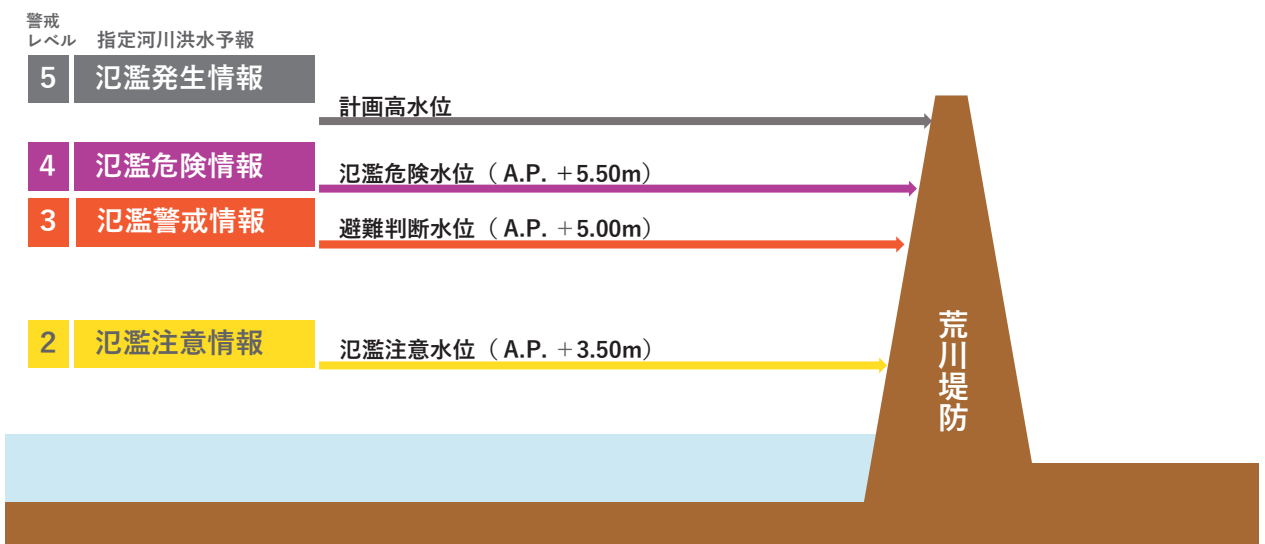
※ 荒川の埼玉県側にある「治水橋」や「熊谷」の水位にも十分注意しましょう。

治水橋



※ 川の防災情報HPより

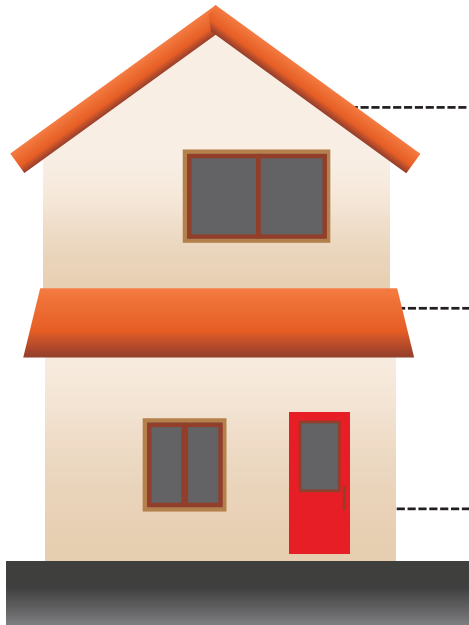
熊谷



※ 川の防災情報HPより

水害に備えて 浸水深と被害

浸水深と家屋被害



5 m~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2階部分を含めて完全に水没 ・ 取り残された場合、生命の危険 ・ 流れがある場合には損壊・流失の可能性が高い ・ 救助は難航することが想定される
3 m ~ 5 m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階部分は完全に水没 ・ 家屋内での緊急避難も困難 ・ 家が浮き上がろうとし始め、流失しやすくなる
0.5m~ 3 m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階部分が浸水 ・ 電化製品等に被害
~0.5m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床下浸水

浸水深と車の関係

ドアが開けられなくなった場合に備えて**ボール等を常備**しておくと、窓を割って脱出することができます。

冠水水位	被害発生状況
ドア上20cm	車体が浮き上がり、流され始める
0.7m (ドア半分)	ドアが水圧によって開けにくくなる
0.5m (ドアステップ上20cm)	車体が水に浮き気味
0.3m (ドアステップ)	マフラーから水が逆流／エンジンに水が浸入
0.1m (タイヤ半分)	ブレーキが利きにくくなる



情報の入手方法 ①テレビのデータ放送

(NHKの場合)

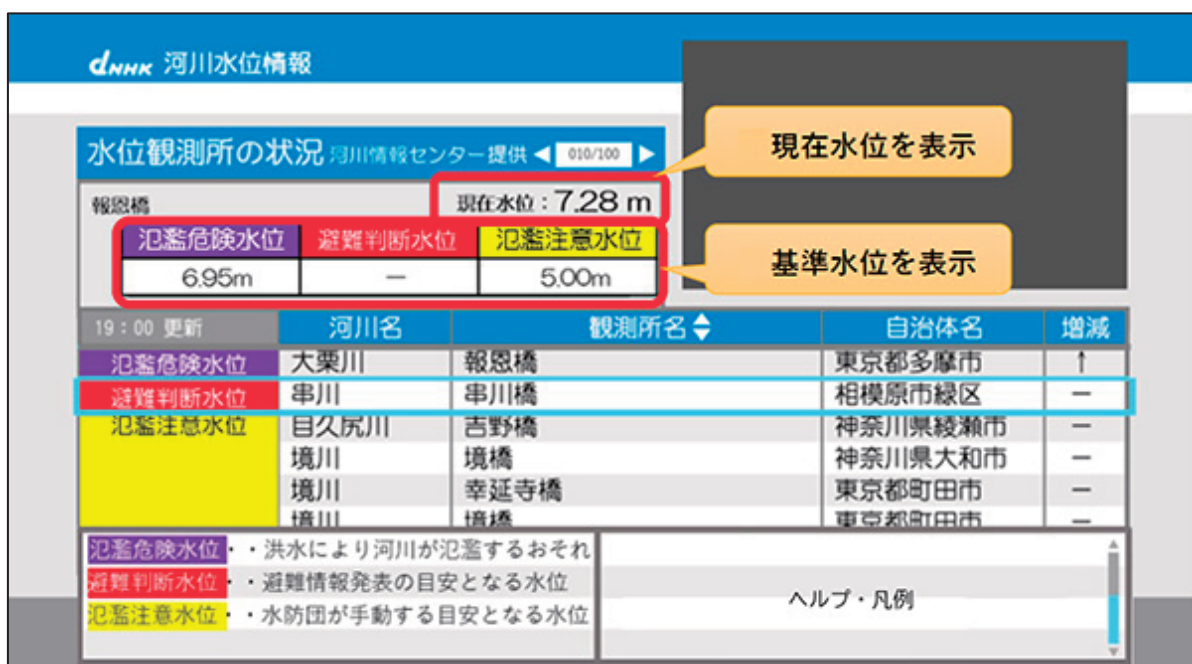
気象に関する情報

ご家庭のテレビのリモコンの「dボタン」を押して、TOPメニューの「気象情報」(「赤」ボタン)を押します。



河川に関する情報

ご家庭のテレビのリモコンの「dボタン」を押して、TOPメニューの「防災・生活情報」「河川水位雨量情報」を選択します。



水害に備えて 情報の入手方法 ②パソコン

気象に関する情報

国土交通省「防災情報提供センター」を開きます。

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>



河川に関する情報

板橋区気象情報を開きます。

<http://www.micosfit.jp/itabashi/>



国土交通省「防災情報提供センター」

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

携帯電話からアクセスし、情報を確認することができます。外出先でも川の水位を確認することができます。

右のQRコードを写しても、「防災情報提供センター」のページを開くことができます。



※QRコードの読み取りは、携帯電話の機種によりますが、バーコードリーダー、ICタグ等と表示されています。

「防災情報提供センター」
携帯電話でアクセス

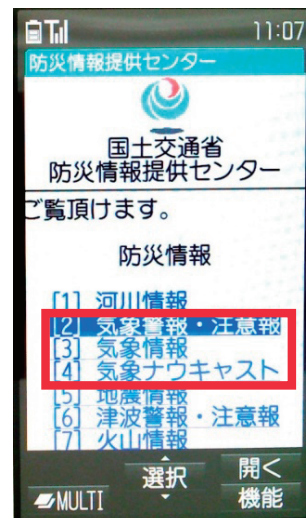
気象に関する情報

「気象警報・注意報」

「気象情報」

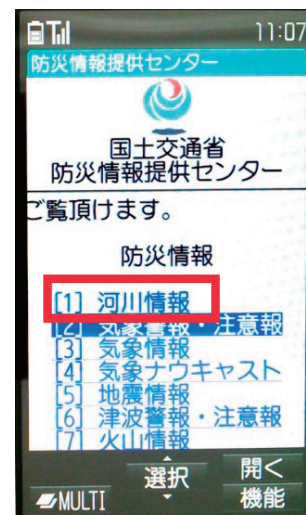
「気象ナウキャスト」

の情報を入手することができます。




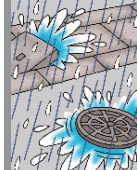

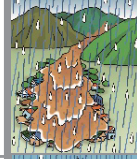

河川に関する情報

「河川情報」を選択すると、各河川の水位の情報を確認することができます。



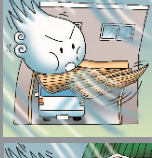




雨や風の強さの目安

雨の強さの目安

<p>やや強い雨 10～20mm/時間</p>	<p>ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。</p>	
<p>強い雨 20～30mm/時間</p>	<p>どしゃ降りとなり、傘をさしていても濡れるようになる。側溝や下水小さな川があふれる。</p>	
<p>激しい雨 30～50mm/時間</p>	<p>バケツをひっくり返したように雨が降り、道路が川のようになる。</p>	
<p>非常に激しい雨 50～80mm/時間</p>	<p>滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすくなる。</p>	
<p>猛烈な雨 80mm以上/時間</p>	<p>息苦しくなるような圧迫感がある。雨による大規模な災害が発生するおそれ強い。</p>	

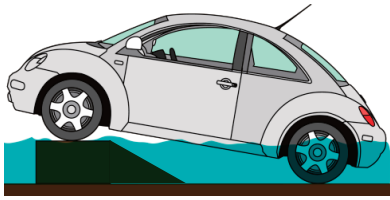
風の強さの目安

<p>やや強い風 10～15m/秒</p>	<p>取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始める。風に向かって歩きにくくなる。</p>	
<p>強い風 15～20m/秒</p>	<p>ビニールハウスが壊れ始める。風に向かって歩けなくなり、転倒する人もでる。</p>	
<p>非常に強い風 20～25m/秒</p>	<p>鋼製シャッターが壊れ始める。しっかりと体を確保しないと転倒する。</p>	
<p>非常に強い風 25～30m/秒</p>	<p>木が倒れたりブロック塀が壊れる。立ってられなくなり、屋外の行動は危険。</p>	
<p>猛烈な風 30m以上/秒</p>	<p>屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が起こり始める。</p>	

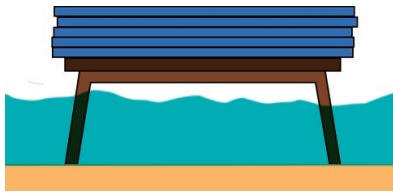
被害を減らすポイント

被害を減らすには、以下の点に注意しましょう。

自動車はエンジン部分の浸水だけでも防ぎましょう。



畳を高い場所へ移動しましょう。食卓の上に乗せておくだけでも浸水を防げる場合があります。



衣類は数日分だけでも、浸水被害にあわないように移動しておきましょう。



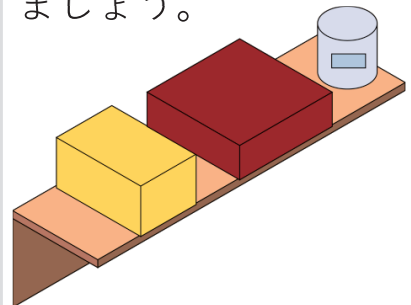
アルバム（写真）なども水に浸かると台無しになってしまいます。



重いものを無理に移動すると、思わぬ怪我をしてしまうかもしれません。



いざという時に浸水から財産を守るよう、様々な場所に厚板で棚を作っておきましょう。



風呂の水は、下水の逆流を防止し、生活用水としても利用できます。



水害に対応した保険に加入しておくことで、復旧への支援が受けられます。



側溝を掃除しておくことで排水能力が上がり被害を少なくできます。



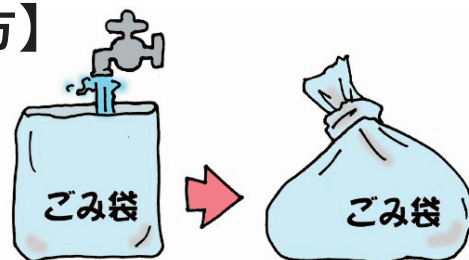
自宅への浸水被害の軽減策

簡易水のう工法

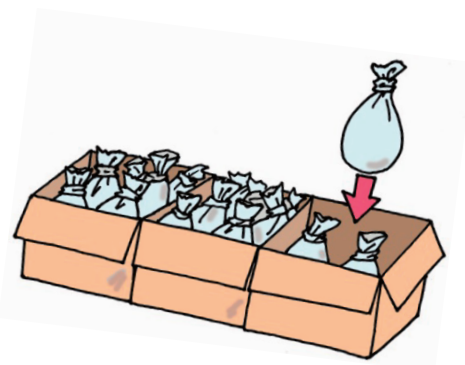
浸水による自宅への被害を軽減するには、ご家庭にあるものを使って家屋への浸水を防ぐ、簡易水のう工法が効果的です。

【ごみ袋を使った簡易水のうの作り方】

- ① 40ℓ程度のごみ袋を二重にして、中に半分程度水を入れます。

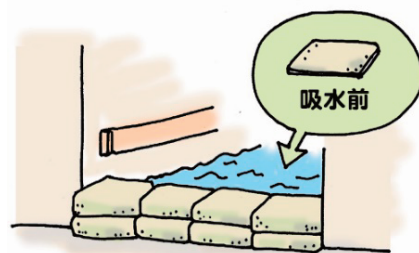
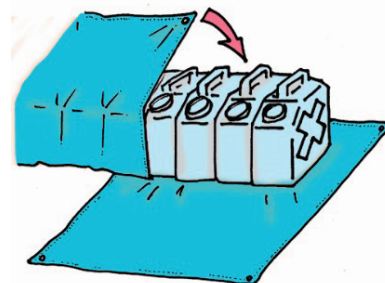


- ② 水の入ったごみ袋を、段ボールの中に入れて使用します。
また、増水時にはトイレから水が吹き上がることもあるため、ビニール袋を重しにして抑えると効果的です。



【その他の簡易水のう工法】

- 10リットル又は20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで包んで使います
- 吸水性ゲル水のうを簡易水のうとして使います。吸水性ゲルは、軽量、コンパクトですが、水を吸うと膨張します。



避難所の部屋割の考え方

緊急度 A：避難所開設直後に不可欠な空間など

緊急度 B：避難所開設から数日後に不可欠な空間など

緊急度 C：避難所の生活がある程度落ち着いてから

大分類	部屋名など	緊急度	部屋割りの考え方
共有空間	本部室	A	正面玄関近くの部屋を借りる
	物資置き場	A	外部からトラックなどが入りやすい場所 (屋外にテントを張った例あり)
	医務室	A	保健室を活用(近くに休憩室が設けられることが望ましい)
	ボランティアルーム	A	できれば本部室の近く
	倉庫	B	教室の机、イスの収納のための倉庫が必要。これまでの例では机、イスは廊下に積み上げている例が多い (避難者が多い場合)
	配給所	B	義援物資などを配給する場所。物資置き場の近くで、配給時のみ一時的に廊下を使う方法もあり
	更衣室	B	居住空間の近くの小部屋を確保する (体育館内の小部屋を利用しているケースが多い)
	調理室	C	炊き出しをする場所。施設内もしくは屋外の水道や排水設備のある場所
	談話室	C	騒音などの関係から居室から少し離れた部屋を借りる (消灯後の利用も前提・スペースに余裕があれば設ける)
	面会室	C	外来者との面談の場所。奥まで人を入れないために外部の入り口の近くがよい
	食堂	C	外部から搬入しやすい場所(スペースに余裕があれば設ける)
	学習室	C	居住空間に隣接した場所(スペースに余裕があれば設ける)
	情報掲示板	A	正面玄関近くの壁面を利用して避難者に情報を提供する
	受付	A	正面玄関近くにテーブルを置く
	仮設電話	A	正面玄関近く(校内放送設備がある場所の近く。校内放送をしないで伝言メモを避難者に渡す方法もあり)
	ペット置き場	A	鳴き声などの関係から校舎から離れたグラウンドの一角にする (できれば雨があたらない場所)
	仮設トイレ (通常は施設内トイレを使用)	A	校舎の近くであまり目につかない屋外の場所でバキュームカーが入れる場所。できれば清掃用の水が近くにある場所 (夜間照明のために仮設の配線が必要)
	テレビ	B	談話室内(体育館の上段に置くケースが多い)
	ゴミ置き場	B	居住スペースから遠い屋外に設置 (できれば雨があたらない場所・清掃車との関係にも配慮する)
	喫煙	B	屋外に設置
パソコン	C	インターネット利用のために設置されることがある。教室あるいは廊下(通行の邪魔にならない場所)	
洗濯場 物干し場	C	屋外の給排水のある場所(プールの近くなどが考えられる)。干し場としては屋上も検討する	

大分類	部屋名など	緊急度	部屋割りの考え方
居住空間		A	<ul style="list-style-type: none"> ■基本は、できるだけ静かな場所で生活できるように工夫する。 ・体育館や教室を活用する（町内会単位の入居が望ましい） ・高齢者や身体の悪い人などには、1階の和室やできるだけ静かな場所に入居してもらう。また大勢の人と一緒にいる場合はトイレに近い場所を提供する
立ち入り禁止区域		A	<ul style="list-style-type: none"> ■学校の管理運営上必要な場所や薬品などがある場所は立ち入り禁止区域とする。例えば、職員室、理科室など（学校側と相談して決める）
共有空間	感染症対策専用スペース	A	<p>症状のない(感染症にかかっていない)避難者とは別の部屋に確保し、専用のトイレも確保する。</p>

メモ欄

万が一の事態に備えるためには、水害が発生した場合を想定し、犠牲者を無くし、財産被害を軽減するための行動を考えておく必要があります。

そのためには、次のような行動がポイントになります。

POINT!

- 大雨・洪水時の状況把握や情報収集
- 余裕を持った適切な避難
- 全員が安全に避難するための地域内の助け合い
- 非常持ち出し品の用意などの事前の備え
- 水に浸かっては困る財産の保護・普段からの対策

◆ 緊急連絡先【電話及びメールアドレス】

(連絡先をあらかじめ記入)

この避難ルールブックでは、上記のポイントや行動の目安となる情報について記載・解説しています。水害のおそれがある場合には、このルールブックを参考に行動してください。

令和4年12月 舟渡町会